

組織現勢 (2月1日現在)

組合員数	23,802世帯
出資口数	77,110口
1月の新規加入	14世帯
1月の増資口数	3,340口

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
本部事務局 大田区大森東4-6-14
TEL (3762) 0266
振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
口座(普) 0469459
発行 「城南の保健」編集委員会
毎月1回発行・定価1部 30円

大森糀谷支部、豊支部、西品川支部、海岸八潮支部、六郷支部で新春のつどいが開かれました

「楽しいひとときを過ごしながら、今年も健康づくりで元気に」

豊支部

豊支部の「新春のつどい」を1月13日に行い、65人の方が参加しました。例年恒例の来賓のあいさつのおと、「新大田病院ができたろうなります」ということを紹介するフラッシュムービーが上映され、さらに、



「今年も厳しい年になりそうですが、展望が開ける年に…」

ゆたか病院や薬局、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、品川の民医連の事業所・地域の様子・関係者を映像をまじえて各事業所から紹介されました。特に、品川の民医連の事業所紹介は、みなさんはこれまで意外ときちんとした説明を聞く機会がなかったよ

うで、「なるほど、そうだったんだ」と納得の声が聞かれました。今回も見事な踊りが披露されたり、マジックでお馴染みの剣持さんはますますトークがさえてきて、みなさんを楽しませてくれました。最後は、キーボードの伴奏で参加者全員で「青い山脈」などの歌をうたって散会しました。

大森糀谷支部

2月1日(木)よる6時半から、前の浦集会所で「新春の集い」が行われました。参加者は47人でこれまでにない盛況ぶりでした。大田病院の井口事務長から「新大田病院の話」があり、これからの新大田病院建設の展開が説明されました。踊り、ギター、歌、手品、詩吟など多くの出し物もあり「来年は私も出し物を出したい」と早くも来年への期待もいただきました。昨年結成された班会

も含めすべての班から参加者が来てくださったことも要因です。ご協力をいただいた方々、参加してくださった方々本当にありがとうございました。



「来年は私も…」と大盛況だった新春のつどい

西品川支部

去る1月27日、新春のつどいを63人の参加で開催することができました。2〜3日前の天気予報では雨との予報で心配していたのですが、お天気に恵まれた中で行うことができました。当日は、三ツ木名物の鍋を囲んで和気あいあい、楽しく2時間があつという間に過ぎました。催し物の内容は、川崎さんの川柳、この日のために日々練習を重ねプロ級の腕前だった波多野さんの手品、その他にも秋田さんが指導してくださる全員で席に座ったままできるトリ



青い目をした外国人が…

ム体操も行い体をほぐすことができました。職員の出し物は、練習時間もなくあったので、ぶっつけ本番で外国人に扮装し(かつらをかぶり、青い目をつけて)片言で憲法をまもれと訴え、その後「さくら」を合唱しました。



秋田さんの指導で全員でトリム体操を

はじめて参加してくれた患者さんから「本言」によかったなあ、おいしかったし、看護師さんのあれもよかったな、また呼んでな」とニコニコしながら感想を述べてくれました。(三ツ木診療所看護師長 三上志津子 職員と支部役員さんの他、た

公 示

第32回通常総代会について

以下の通り第32回通常総代会を開催いたします
日時 2007年5月26日(土) 午後1時開場
会場 大田区生活センター(予定)
議題 2006年度活動のまとめ
2007年度活動方針
予算、決算、役員選出、活動報告、その他

2007年4月1日
城南保健生活協同組合 理事長 小関 直彦

総代立候補受付について

総代に立候補しようとする組合員は、4月30日までに選挙管理委員会(生協本部)に、氏名・地域(職場)を記入して届けてください。なお選挙権、被選挙権の資格を有する人は、2007年3月31日現在の組合員です。

総代選挙管理委員長 古口 敏行

腹八分

駅での待ち合わせ。日常よく見かける光景です。朝だつたらどこかに旅行に出かけたりの場合が多々、夕方だつたら一日の勤めが終わって、たがいをねぎらい、若いカップルだつたら、希望と誇りが周囲にも伝わってきました▼いま朝の駅で待ち合わせをする人には、不安そうなお表情がうかがわれます。誰かを待ちながらコピーされた地図をうかがい、あるいは携帯をのぞきこんでいます。幾つかの待ち合わせのグループが発生し、数が膨らんだ頃、どこからともなく人物が近づき、慣れた表情で短い会話を交わすと、グループはその人物とともに、いざこへ姿を消してゆきます。夕暮れどきにも、そんな光景が見られます。駅に発生する人の塊は、その日一日の契約で就労を求めた人々であり、昔の日本に比べて、政府の「美しい日本」の掛けの下で国会議員の事務所問題、厚生労働相の暴言。そして東京都知事の浪費内閣の掛声とあべこべに、汚れた方向を強めています。「希望のもてる国」を突然打ち出した経済界も、タタ働きを法制化するホワイトカラーエグゼンプションを導入しようとしていたり、非正規雇用をさらに拡大させようと、要法を政府に迫つたりで、働く人々の希望を摘み取ることに熱心です▼戦前、軍が横暴をきわめたように、いま財界が暴走を強めています。政府には一応意見を述べるマスコミも、財界にはまるで及び腰です。戦前の国民の苦難の時代を「美しかった」という勢力に、財界を押さえる力はありません。